

会 議 録

会議の名称	第1回西東京市図書館計画策定懇談会
開催日時	令和5年4月26日（木）午後2時から4時まで
開催場所	中央図書館 会議室
出席者	【委員】小西委員（座長）、島委員（副座長）、石井委員、鈴木委員、大塚委員、小田委員、徳山委員（館長）、司城委員（副館長） （欠席）長谷川委員 山辺委員 【事務局】金本庶務係長 【オブザーバー】吉田社会教育課長、齋藤社会教育主事
傍聴者	0名
議 題	第1 委員紹介 第2 正・副座長の選出 第3 配布資料説明 第4 今後の日程について
会議資料の名称	資料1 西東京市図書館計画策定懇談会委員名簿 資料2 西東京市図書館計画策定懇談会設置要綱 資料3 西東京市図書館計画（平成31（2019）年度～2023年度） 資料4 西東京市図書館の開館時間の拡大について（答申） 資料5 令和3年度西東京市図書館事業概要 資料6 令和3年度図書館事業評価 資料7 図書館計画中間まとめ 資料8 第4期西東京市子ども読書活動推進計画 資料9 開催日程（案） 資料10 私たちの望む西東京市の図書館
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p><u>第1 委員紹介</u> 図書館長及び副館長、あいさつ 各委員、自己紹介 社会教育課長及び社会教育主事、あいさつ 西東京市社会教育委員及び西東京市公民館運営審議会委員は、次回より会議に参加予定。</p> <p>この会議は要約した議事録を市ホームページ・情報公開室にて公開する。</p> <p><u>第2 正・副座長の選出</u> 座長に小西委員、副座長に島委員が選出された。</p> <p><u>第3 配布資料説明</u> ○館長 資料1から8までについて説明。資料9は今会議内で確認する。 資料10は昨年度の図書館協議会で作成、計画策定にあたりご確認いただきたい。</p>	

- 座長 私たちのミッションは、次の5か年の「西東京市図書館計画」の策定を行うこと。図書館計画は、図書館関係者や部内の検討だけでなく、市民の視点を意図して作られているため、公募の方々の参加は市民視点を反映する意味で心強く思う。この会議ではできるだけ図書館用語を使わないで進めたい。西東京市民にとって素晴らしい図書館はどういうものなのか、今後の5年間をどう進めるべきか、幅広く意見を募って取り組んでいきたい。
図書館計画の骨子「基本方針」について、館長から説明いただく。
- 館長 （基本方針・基本理念1から6はについて説明後）このまま継承・反映したいと考えている。
- 座長 本方針作成の意図と、6つの柱を継承する意向について説明いただいた。新しいアイデアを加えるとすれば、この枠組みに入らないこともある。
- 委員 Chat GPTを大学で学生に使わせるかどうかなど、新しい時代の中で図書館の周囲の環境もデジタル化で変化している。また、SDGSとかLGBTQのような世界的な課題について図書館がどのように向き合うか。計画策定の際に考慮したい。
- 副座長 資料10の13項目を計画にどうリンクさせるのか、考えていく必要がある。
- 座長 この6項目を元に容れ物自体を変化させることもありうる。柔軟に対応すると理解した。また、図書館協議会で作成した「私たちの望む西東京市の図書館」は、たいへんよくできており、今回の将来計画にも反映すべきだと思う。アメリカの図書館協会の作成した「図書館のめざすもの」や2022年版のユネスコ公共図書館宣言を踏まえた、図書館の基本理念が示されている。基本方針にどうリンクさせるかを考えると同時に、将来計画の大本に据えるべきと考える。計画報告書の冒頭に掲載することも考えてはどうか。
- 副座長 資料10は、昨年、図書館協議会でどんな図書館がよいのか、20万都市にふさわしい図書館についてあげた13項目。今計画、その後の中期的な計画のところまで反映できればありがたい。
- 座長 今回の将来計画を考えていく上で、施設問題が一つの焦点になると思う。これまで中央館と5つの地域館体制でやってきたが、この体制をいつまでも維持できるとは限らないので、そもそも望ましい西東京図書館の施設計画はどうあるべきか、この5か年計画の中に落とし込んでいく必要があると考えている。
- 館長 合併以降の現在の図書館の位置やそれに伴う課題、三館合築、中央図書館の耐震補強等改修工事についての説明。
- 委員 図書館が取り組んでいる課題がよく整理されてホームページに掲載されている。市民にもっと知っていただくためには、紙情報である「図書館だより」の発行回数を増やし、かつ西東京市広報にセットして全戸配布して欲しい。
- 座長 まさにそういう意見を反映していきたいと思っている。
- 館長 図書館だよりの説明。

- 座長 非常に良いデザインで頑張っていると思う。最新号を読んで、過去のものから見たいと思う人がいると思うので、バックナンバーをファイリングしたらどうか。
- 委員 広報類は手に取れることに意味がある。館長が図書館の要は資料と話されたとおり、現物があり、手に取れることで初めて知ることができる物事がある。何も予備知識のない人に何かを知らせる、系統立てて伝えるにはまとまった形で渡せる紙媒体が有効で、今後とも必要だと思う。特に「情報検索」ではない、読書という行動については、「本」の形で体感できることに意味がある。子ども向けに電子書籍を導入となるが、子どもが幼ければ幼いほど、重さがあり、厚みがあり、ページをめくったり、五感で触れたりする物としての「本」が大事と思う。共に楽しむ大人がいることも含めて、全身で感じるからこそ実体験として積み重なる。子どもの発達段階や成長過程でどういう読書が有効で必要なのか、忘れてはいけない。学ぶことの本質にも関わる「読書」について、次の「図書館計画」にも、電子書籍がすべてではないことは意識しておきたい。
- 館長 社会の変化や、先ほどのデジタルの領域が進歩していることなどは事実だが、図書館は紙媒体の資料を残していかなければならない。電子と共存しつつ、流れに任せるのではなく、意図して電子と紙媒体の使い分けをするようにする。講演会・おはなし会も含めて、配信やオンラインの利便性とリアルの醍醐味は相互補完と考えている。
- 座長 今の時代は、新しい波が来ると先端を走るか、退ける、という両極端に分かれる。市民のための図書館は両方のバランスをとって提供できる存在になるべきと思う。市民が望むこれからの図書館とは、先端サービスをする、新しい図書館を、と考えられがちだが、息の長い図書館サービスを想定すると疑問に思わざるを得ない。先ほど委員からお話があったように紙媒体をしっかり根っこに置いたサービスを展開してほしいというのは当然。図書館のあり方やこれからの5年間の図書館の計画について意見交換していくことになるので、忌憚なく自由にご発言いただきたい。
- 委員 資料10 13番 ユネスコ公共図書館宣言が図書館の無料の大原則で、ここから始まっているというのを初めて知って、単純に感動した。老朽化が進むとどうなるのか、中央図書館は耐震工事がされたが、5か年計画の中ではどうするのか、図書館の利用者がどう考えるか、市民に意見を求めてみてはどうか。資料3 38p (7) 三鷹市の移動図書館について言及されている。市内には歩いて借りに行くことが体力的に無理な方もいると思う。計画に組み込みたいと思う。
- 座長 市民アンケートを実施と聞いているが。
- 館長 図書館計画に向けて図書館に関するアンケートを実施した。一般の方から、小学生以上の子どもの意見、利用状況を含めて聞いている。今後参考資料として提出する。
- 座長 市民はもちろん、役所の他の部署からの意見、市議会議員の方々の意見をできれば伺いたい。移動図書館については検討されたのか。
- 館長 移動図書館については協議会でも議論はしていない。移動図書館自体の価格が大き

いというのが一つと、ポイント場所とタイミングが合うかどうかで、利便性が判断されてしまう。それ以外のアプローチの仕方はないかと考えてもいるが、提案できるものまでは至っていない。

- 座長 他の自治体で検討しているところ、実行に移しているところ、移動図書館を中心にしている自治体もあるし、様々だと思う。何千冊の移動図書館を用意しなくても、希望図書のデリバリーサービスもあるのではないかな。
- 委員 飯能市の図書館では、クラウド用のサービスとして使っているようで、借りたい本を用意するというサービスの費用と、移動図書館を実行することの費用と比べてみる価値はあるのではないかな。
(注：飯能市図書館：カーリルタッチと移動図書館車、郵送貸出（有料）を実施)
- 副館長 他の部署から、移動図書館の可能性について聞かれたことはある。それ以外にも図書サービス施設や、いわゆる小学校区ごとに蔵書1万冊程度の分室を置く考え方。今後の図書館展望、中央図書館を中心に配置と規模、各図書館の役割などに計画の中で触れていただき、5年間今後の図書館を考えていく。
- 委員 保谷駅前図書館の前は荒屋敷に図書館があったが、現在の保谷駅前図書館は貸出率が高い。それは駅との隣接が大きい。このマップで手薄なところは東伏見から北の部分で東伏見を充実させればある程度埋まる。もう一つは半径一キロというのが年を重ねるにつれて遠いと判断される時を考えれば、半径五百メートル、六百メートルというマップに変える必要がある。
- 座長 図書館では全域サービスと言っているが、市民がどこに住んでいても便利に使える図書館の配置と言われている。その意味では全国的にみると、西東京市は一キロの円がうまく描けていると思う。とはいえ、一キロ圏内の円であっても空白地帯があり、この懇談会の中で、時間を割いて議論していくことかと思う。
- 副座長 利用者マップ、町別の登録率は出るか。登録人数は町丁別の人口と図書館の登録率が分かるとよい。
- 館長 事業概要に数値の記載はある。駅付近に新たに土地を入手することは、とても困難で、ハード面で解決することは難しい。また、施設ごとにどの観点で規模を考えるのか。中央図書館を大きな規模で建設してその他では、利用、サービスに特化していく。人口の推移も当分20万人は切らないという予測だが、年代は上がるとなれば、一キロ範囲というところは、検討してもよいのかもしれない。
- 座長 谷戸は人口も多く、使いやすいところに図書館があるので登録率も高い。一方、新町のように図書館が周りにないから登録しないということになる。これは非常に顕著であり、近くにないから使えないと言っている。
- 館長 新町福祉会館図書サービスがある。
- 座長 それではだめだということだと思う。結果が数字に出ている。武蔵野市は、吉祥寺とか三鷹とか西東京市側から通勤で向こうに行く可能性のある場所だから、武蔵野市を利用することはある。武蔵野市側から西東京市を利用しに来る人が少ないとこ

る。これはおそらく図書館の魅力の差にある。また、武蔵野市側から西東京市は通勤途上ではないことも大きい。統計の見方はいろいろあるが、こういうものを踏まえながら配置計画を議論の中でしていきたいと思う。

○館長 登録率のマップはやり方を考える。

○座長 次回以降について、アンケートがまとめれば紹介いただく。
この基本方針を軸にしていくということで、変更も含めて、議論の進め方も基本方針の順番でやるか。

○副座長 事務局側で進め方のたたき台を出してもらって議論していくのが良い。

○座長 図書館職員の意見を聞くという意味でも事務局側でたたき台を用意していただくという気持ちがある。

議論の中で、枠にとらわれずに斬新なアイデアが各委員から出されて、これからの図書館はこうあるべきだという良いアイデアが出たときに、軸を変更するかどうか。基本方針を土台にして、今いらっしゃる職員の方々がどうしたいかという抱負をこれに追加してほしい。図書館員の現場の意見を前提にして、それを基に私たちがここで議論し具体化していくというのでいかがか。

作業としては、図書館員の方々のご意見をここに追加していく形になる。

○館長 準備ができたものから出していく。

○座長 第1回目は、計画作成に向け、大きな方針・柱を確認し、方向性について意見交換を行った。

第4 今後の日程について

第2回 5月24日（水） 10：30～12：30

第4回 7月12日（水） 10：30～12：30

8月以降は次回調整